

静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会
発行日 平成28年9月25日

会 報

第516号



静岡市で3校目の中学校通級指導教室

担 当 静岡市立清水第二中学校
発達通級指導教室「桜が丘教室」
〒424-0852
静岡市清水区神田町4番57号
TEL 054-353-3365
FAX 054-353-3681

静岡市立清水第二中学校

本校は、昭和22年4月1日、清水市立第二中学校として発足した歴史と伝統ある学校で、清水岡小学校区、清水浜田小学校区、清水船越小学校区から約700名（各学年7クラス）の生徒が通っている。学区は東は清水港から西は有度山の麓まで広がり、静岡市役所清水庁舎（区役所）や市立清水中央図書館、市立桜が丘高等学校、県立清水西高等学校等があり、清水区の文化行政の中心地となっている文教地区である。また、船越堤公園は桜の名所として有名で毎年多くの人で賑わい、水神社の祭典など地域の伝統的な行事も脈々と受け継がれている。

生徒は落ち着いた校風の中、学校教育目標の重点目標「本気の挑戦をしよう」と、生活の指針「時を守り、場を清め、人を敬う」を合い言葉に、一生懸命に日々の学習や部活動に取り組んでいる。

校 訓	『自発 責任 明朗』
学校教育目標	『高い知性 豊かな心情 しょうぶな体』
重点目標	『本気の挑戦をしよう』
生活の指針	『時を守り 場を清め 人を敬う』



平成27年度、駿河区の大里中学校、葵区の末広中学校に続いて、清水区の中学校では最初の通級指導教室が清水第二中学校に開設された。学区内の清水浜田小学校には既に通級指導教室（さつき教室）があったが、今回、本校の通級指導教室の開設により、小中の連続した指導が可能となった意義は大きい。

現在、清水第二中学校の通級指導教室（通称：桜が丘教室）には16名が通級しており、週1回程度の通級ではあるが、自分を見つめ直すきっかけとなったり、自己コントロールの方法を学んだり、着々と成果を上げつつある。また、本年度より由比中学校でサテライト指導もスタートし、遠方の希望者も利用しやすくなった。

近年、どの中学校でも特別支援教育の考え方が浸透し、教職員や保護者の中に「合理的配慮」の理解が進んでいるが、通級指導教室の存在や効果的な利用法についてはまだまだこれからという感がある。周知や研究を進める必要性を強く感じると共に、後継者の育成という点でも不安が残る。特に、一人で教室経営をしている場合、退職や転勤でノウハウがうまく引き継がれない可能性がある。複数配置により、指導方法をチームで相談できたり、のりしろのある人事異動が可能になる。是非、考えていきたいところである。

桜が丘教室の概要

開設 平成27年4月1日（今年度で2年目）
対象地区 清水区内の中学校
指導教員 1名
生徒数 16名（自校5名 他校11名）
LD （6名）
ADHD（1名）
自閉症 （9名）

*今年度よりサテライト指導を始めました

教室の風景



指導の流れ (50分)

生徒	保護者
○「こころスケール」記入 (心と体の調子をアンケート)	○面談 (近況・本日の指導のねらいや内容)
○課題に応じた指導	○学習カード(連絡票)の保護者通信欄記入 ○指導参観
○振り返り	
	○指導の報告

指導内容

単語を書くことが苦手...

	have	like	want	play	go	make	eat	read	watch	use	come	wash	open	cook
have														
like														
want														
play														
go														
make														
eat														
read														
watch														
use														
come														
wash														
open														
cook														

陣地取りゲームを通して重要動詞に慣れる

単語を書くことが苦手...

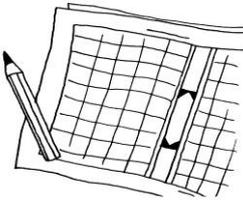


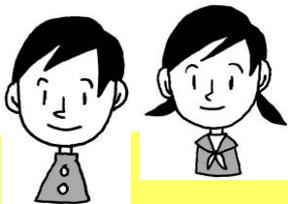
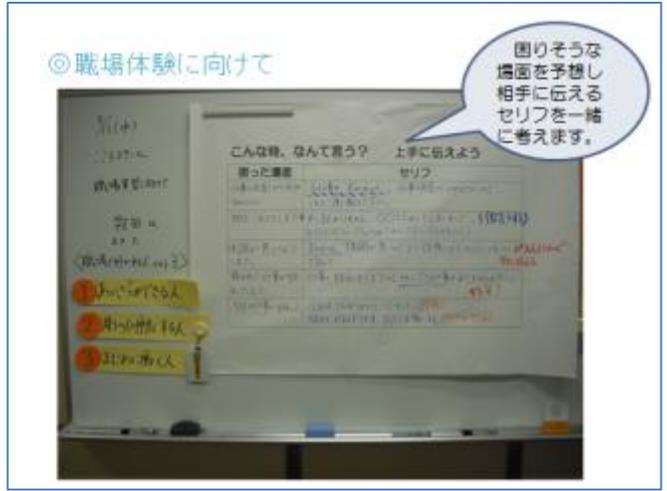
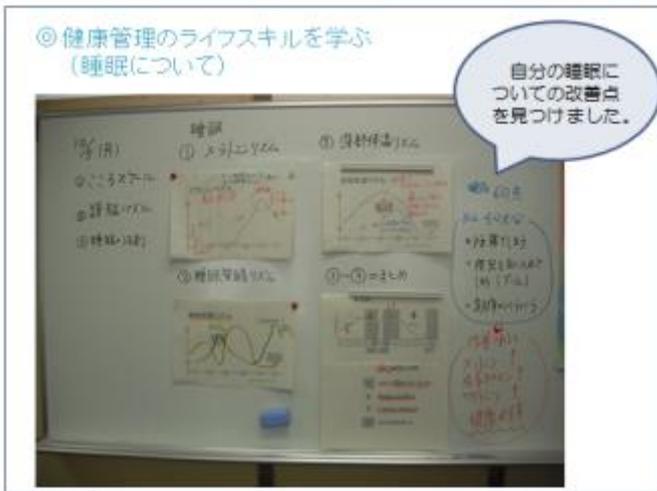
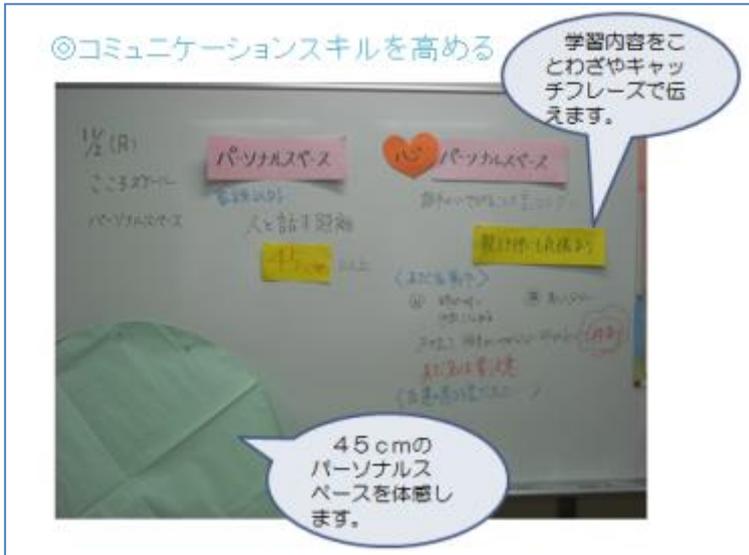
陣地取りのゲームで慣れた重要動詞をアルファベットカードを並べて作ります。

書字が苦手...



パソコン書字なら漢字も変換してくれます。ローマ字入力も次順に慣れてきます。





中学生はアイデンティティが確立される時期です。しかし、まわりの友達と同じようにできない自分を受け入れられず、自分自身を否定的にとらえてしまいがちです。自分は何が「苦手」で何が「得意」なのかが分かることが大切です。様々な活動を通して自己理解を深められるような支援をしていきたいと考えています。「苦手」はサポートしながら、自分の得意を伸ばし、「自分ってなかなかいいかも…！」と自分自身に自信をもってほしいと願っています。